

本校の学力向上にかかわる課題

○国語科

- ・協同的な学びを推進することにより、自分の思いや考えを進んで伝える姿が見られるようになってきている。しかし、発言に対する意欲の個人差は大きい。
- ・漢字の読み書きの力は伸びてきているが個人差は大きい。
- ・与えられた条件に合わせて文章を書く力が弱い。
- ・ことわざや慣用句、故事成語などの意味の理解が不十分で、生活の中で使うことができていない。

○算数科

- ・計算など基礎的、基本的な技能の個人差が大きい。
- ・図形に関して示された条件を基に考える力が弱い。
- ・根拠を示しながら自分の考えをわかりやすく伝える力が弱い。
- ・新しい問題に挑戦する意欲はあるが、集中力が続かず、あきらめるのも早い。

○学習習慣

- ・家庭での学習習慣の定着が不十分である。
- ・学習したことを生活の中で生かそうとする意欲が乏しい。
- ・自尊感情は少しずつ高まってきている。

学力向上へのアプローチ

『学ぶ意欲・習慣』からのアプローチ

- ・協同的な学びを通して、共に学ぶ姿勢を育てる。
- ・「話し手の顔を見て黙って話を聴く姿勢」を習慣化させる。
- ・「分かった」「できた」が実感できる授業を推進する。
- ・一人ひとりが活躍でき、満足感、成就感を感じることが出来る授業を行う。
- ・基本的な学習規律を再確認し、全職員で徹底する。
- ・校内掲示物を工夫し、学習への興味関心を育てる。

『基礎的・基本的な知識・技能』からのアプローチ

- ・低学年からの積み重ねを大事にする。
- ・「朝の読書タイム」を継続する。いつも手元に本を1冊置き、時間があれば読書をする習慣をつける。
- ・条件に合わせて文章を書く活動（引用、字数制限など）を積み重ね、目的に応じた文章を書く力を伸ばす。
- ・1時間の授業を振り返り、自分の言葉で書く。（字数制限、使用するキーワードを指定するなど。）
- ・学習した漢字は、書く文章の中で必ず使うよう指導し、身に付けさせる。
- ・計算プリントを活用し、短時間の取り組みを積み重ね、基礎的な計算の力を身に付けさせる。
- ・全校的で統一したノート指導を行い、学習内容の理解に繋がると共に書く力を伸ばしていく。
- ・児童の特性に応じた個別の支援を行う。

『学んだことを元に課題を解決したり、生活に生かしたりする力』からのアプローチ

- ・既習内容や生活経験を基にして、みんなで学習を練り上げていく学び合いの学習を進める。
- ・特別活動など教科学習以外においても既習内容が生かせるよう、子ども自ら考え自主的に行動する場を設定する。
- ・学習の振り返りを行い、今日の学びを確かめられるようにする。

『学びを支える確かな生活（基本的生活習慣・自尊感情・規範意識）』からのアプローチ

- ・家庭との連携を強化し、発達段階に応じた家庭学習の定着を図る。
- ・睡眠、食事など子ども達が規則正しい生活がおくれるよう保護者への啓蒙に努める。
- ・学習や生活での振り返りを通し、子ども自らが自分の成長を感じ取れる取り組みを進める。
- ・様々な方面から積極的に子どもの良い行動を見つけ、認め、褒めることで自己肯定感を高める。
- ・児童同士が互いの良さを感じ、認め合う取り組みを進める。

学力向上策の検証

- ・全国学力学習状況調査の結果を分析し、普段の実践に生かす。
- ・普段の授業における児童の自己評価等を授業改善に生かす。
- ・「学校評価」（自己評価、学校関係者評価）を検証し活用する。
- ・「学校評価」や全国学力学習状況調査の結果を生かし、向上策を見直す。